

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	佛教大学
設置者名	佛教教育学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
仏教学部	仏教学科	夜・通信	14			14	13	
	仏教学科 (通信教育課程)	夜・通信	16			16	13	
文学部	日本文学科	夜・通信	14			14	13	
	中国学科	夜・通信	14			14	13	
	英米学科	夜・通信	14			14	13	
	日本文学科 (通信教育課程)	夜・通信	16			16	13	
	中国学科 (通信教育課程)	夜・通信	16			16	13	
	英米学科 (通信教育課程)	夜・通信	16			16	13	
歴史学部	歴史学科	夜・通信	14			14	13	
	歴史文化学科	夜・通信	14			14	13	
	歴史学科 (通信教育課程)	夜・通信	16			16	13	
	歴史文化学科 (通信教育課程)	夜・通信	16			16	13	
教育学部	教育学科	夜・通信	14			14	13	
	幼児教育学科	夜・通信	14			14	13	
	臨床心理学科	夜・通信	14			14	13	
	教育学科 (通信教育課程)	夜・通信	16			16	13	
	幼児教育学科 (通信教育課程)	夜・通信	16			16	13	

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
社会学部	現代社会学科	夜・通信	14			14	13	
	公共政策学科	夜・通信	14			14	13	
	現代社会学科 (通信教育課程)	夜・通信	16			16	13	
	公共政策学科 (通信教育課程)	夜・通信	16			16	13	
社会福祉学部	社会福祉学科	夜・通信	14			14	13	
	社会福祉学科 (通信教育課程)	夜・通信	16			16	13	
保健医療技術学部	理学療法学科	夜・通信	14			14	13	
	作業療法学科	夜・通信	14			14	13	
	看護学科	夜・通信	14			14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/>

<https://tsushin.bukkyo-u.ac.jp/data/dp/disclosure/practitioner2025.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	佛教大学
設置者名	佛教教育学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

法人ホームページにて公表 <https://efbes.ac.jp/summary>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	令和7年5月29日 ～ 令和11年5月29日	法人・設置校の経営 計画へのチェック 機能
非常勤	株式会社役員	令和7年5月29日 ～ 令和11年5月29日	法人中長期計画へ のチェック機能
（備考）本法人寄附行為にて、理事の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	佛教大学
設置者名	佛教教育学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。		
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学のシラバスは、学生に授業の進め方や到達目標を明示するため「授業のテーマ」「授業の概要」「授業の目的・ねらい」「毎回の授業テーマ・内容」「到達目標」「授業時間外の学修(予習・復習等)についての具体的な指示」「受講にあたっての留意事項」「成績評価の基準」「テキストについて」の項目を設け、本学ホームページと学生ポータルサイトで公表している。 シラバス作成時には、「シラバス作成要領」を教員に配付し、各項目の記入における注意事項を明記し、標準化された基準に沿って作成を促す等、授業の質向上に努めている。		
No	作成過程	作成時期
1	シラバス入稿準備 (「シラバス作成要領」作成、システム設定等)	11月下旬～12月上旬
2	シラバス入稿依頼	12月中旬～3月中旬
3	シラバス公開	3月下旬
〔通信教育課程〕 通信教育課程も通学課程と同様であるが、自宅学習が基本となる「印刷教材等による授業(本学ではテキスト履修と称する)」においては対面による授業を行わないことから、「毎回の授業テーマ・内容」の代わりに、当該テキスト履修科目の「レポート設題」および「レポート学習の留意点」の項目を設けるなどの工夫を行っている。		
No	作成過程	作成時期
1	シラバス入稿準備 (「シラバス作成要領」作成、システム設定等)	10月下旬～11月下旬
2	シラバス入稿依頼	12月上旬～12月下旬
3	シラバス公開	3月上旬
授業計画書の公表方法	https://b-netrx.bukkyo-u.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml https://tsushin.bukkyo-u.ac.jp/data/dp/disclosure/text2025.pdf https://tsushin.bukkyo-u.ac.jp/data/dp/disclosure/schooling2025.pdf	

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

本学では、1 年次、2 年次および 3 年次の春学期に、外部業者によるアセスメントテストを実施しており、各学年における基礎学力、学習意欲、学修実態を調査している。また、学修成果に対する評価については、シラバスに記載されている「到達目標」の達成度を基準としたうえで、定期試験、レポート、実技等どのような方法によって評価するかを予め明示している。

また、すべての学部において、以下の成績評価方法と成績評価の基準を「STUDY GUIDE」にて示した上で、授業科目における学修成果の評価を厳格かつ適正に行っている。なお、以下のとおり「修学規程」第 4 条・第 5 条で試験および成績評価を定めている。

(試験)

第 4 条 試験の種類は、定期試験、追試験および再試験とする。

2 試験は、筆記試験、レポート(論文)試験、口述試験、実技試験またはその他の方法によって行ない、その方法については別に定める。

(成績評価)

第 5 条 成績評価は点数をもって行ない、次の評語で表示する。また、本学が入学前の既修得単位によって認定した授業科目については、「認定」の評語で表示する。

S 100 点～90 点

A 89 点～80 点

B 79 点～70 点

C 69 点～60 点

D 59 点以下

X 未受験

N 評価対象外

2 成績評価は 60 点(評語 C) 以上を合格とし、59 点以下(評語 D)、未受験(評語 X)、評価対象外(評語 N) は不合格とする。

〔通信教育課程〕

通信教育課程の学修成果に対する評価については、通学課程同様、シラバスに記載されている「到達目標」の達成度を基準としたうえで、テキスト履修については科目最終試験、スクーリング履修については試験またはレポートによって評価する旨を明示している。成績評価は、シラバスに記載された成績評価の基準に基づき行っている。「単位修得・成績証明書」には合格科目のみが記載され、評価は A、B、C 等が記載される。

点数	成績証明書の表示	評価の基準	判定
100～80	A	到達目標をほぼ完全に達成または十分に達成しており、優秀な成績を修めている	合格
79～70	B	不十分な点があるが、到達目標を相応に達成している	
69～60	C	到達目標の最低限は満たしている	
59～ 0	表示なし	到達目標を達成できていない 単位を与えるためにはさらに学修が必要	不合格

また、通信教育課程では GPA を導入はしていないが、従来の成績評価により厳格かつ適正に評価を行っている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

2019 年度 1 年次入学者から適用される新カリキュラムより GPA による成績評価を導入するとともに、下記のとおり全学共通の成績評価基準を設け、統一的、標準的な基準によって成績評価を行っている。

点数	評価	GPA	成績評価基準
100-90	S	4	到達目標をほぼ完全に達成しており、極めて優秀な成績を修めている。
89-80	A	3	到達目標を十分に達成し、優秀な成績を修めている。
79-70	B	2	不十分な点はあるが、到達目標を相応に達成している。
69-60	C	1	到達目標の最低限は満たしている。
59-0	D	0	到達目標を達成できていない。単位を与えるためには更に学修が必要である。
未受験	X	0	定期試験を受験していない。
評価対象外	N	0	評価対象外などの場合。

GPA の公表については、カリキュラムポリシーにその位置付けを明確にするとともに、学生には「STUDY GUIDE」にて公表している。

GPA の算定方法については、以下のとおりである。

■ 学期 GPA

$$\frac{\text{(当該学期の履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数) の総和}}{\text{当該学期の履修科目の総単位数}}$$

■ 通算 GPA

$$\frac{\text{(全学期の履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数) の総和}}{\text{全学期の履修科目の総単位数}}$$

今後は、GPA による成績分布等を確認しながら、進級判定やさらには奨学金受給者の審査等にも活用する。

〔通信教育課程〕

通信教育課程においては GPA を導入していないが、「佛教大学通信教育規程」において「授業科目の成績は 100 点満点とし、試験の結果 60 点以上を合格とする」こと、および、「単位を修得した授業科目について、A、B または C の評語をもって記載し、評語の基準は次のとおりとする」「A：100～80 点、B：79～70 点、C：69～60 点」とする旨を規定している。

成績評価基準については、通学課程の基準を準用している。

客観的な指標の算出方法の公表方法

<https://www.bukkyo-u.ac.jp/students/studyguide/>
<https://tsushin.bukkyo-u.ac.jp/data/dp/disclosure/evaluation2020.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 佛教大学のディプロマポリシーは通学課程および通信教育課程ともに以下のとおり制定している。 人材養成の目的にも示したように、本学は仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけた人材、すなわち「人間力」をもった人材の養成を目指しています。具体的には「転識得智」すなわち社会人として必要な教養や知識・技能および専門知識を生きる力（応用力）へと導く力を培うことを目的とします。 以下に示す力を修得するとともに、学部・学科の人材養成の目的に基づいて設定された教育課程を修めた学生に対して、本学は卒業を認定し学位（学士）を授与します。 ①仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている。 ②仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている。 ③社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている。 ④自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力をもっている。 ⑤専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力を身につけている。 以上を大学の基本とし、各学部学科においてもディプロマポリシーを制定している。また、学部学科ごとに卒業所要単位と要件、卒業論文・卒業研究・卒業レポート作成・提出の手順および卒業所要単位充足者発表のスケジュール等を学生に示している。
卒業の認定に関する 方針の公表方法	●ディプロマポリシー https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/ ●卒業に必要な科目と単位 https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/complete/necessity/ https://tsushin.bukkyo-u.ac.jp/data/dp/gakubu_youkou2023/html5.html#page=41 ●卒業について https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/course/graduation/ https://tsushin.bukkyo-u.ac.jp/learn/flow/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	佛教大学
設置者名	佛教教育学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	法人HPにて公表: http://www.efbes.ac.jp/summary/
収支計算書又は損益計算書	法人HPにて公表: http://www.efbes.ac.jp/summary/
財産目録	法人HPにて公表: http://www.efbes.ac.jp/summary/
事業報告書	法人HPにて公表: http://www.efbes.ac.jp/summary/
監事による監査報告(書)	法人HPにて公表: http://www.efbes.ac.jp/summary/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:	https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/approach/
-------	---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:	https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/approach/
-------	---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 仏教学部（通学課程）（通信教育課程）
教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表） 仏教学部： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/ （仏教学科： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/buddhism.html ）
（概要） ●人材養成の目的 ①建学の理念に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、叡智と慈しみをもって自己をみつめ、常に自己啓発しうるとともに、他者を思いやり、自然の恵みに共感できる人材を養成する ②仏教の精神に基づき、平等で平和な社会に向けた、現代社会に対する理解力と対応力を身につけた人材を養成する ③仏教を中心としつつ、社会人として必要な教養を身につけた人材を養成する ④仏教に関わる諸領域における学修を通して、さまざまな問題を把握する力とそれを表現する力を身につけた人材を養成する ●その他の教育研究上の目的 1) 教育 ①生老病死に関わる諸問題について発信する本学の基幹学部として、全学に仏教精神を涵養する教育を進める ②建学の理念に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、叡智と慈しみをもって自己をみつめ、常に自己啓発しうるとともに、他者を思いやり、自然の恵みに共感できる人材を養成するための多様な学修機会を提供する ③専門分野の教育はもとより、自らの内面を豊かにする幅広い教養を身につける機会を提供する ④現代社会の諸問題への関心と関わりを喚起するような学生支援を行う 2) 研究 ①仏教学を基盤とする多角的・複合的な視座からの研究を遂行する ②最新の研究成果を共有し合い、それを教育の現場と社会に還元する ③他の諸科学との学際的な研究を進め、それを専門研究にフィードバックする 3) 社会貢献 ①仏教の他者への思いやりの精神に基づく活動を通して、地域社会に貢献する ②共生の精神を具現していく人材を社会に提供することで貢献する ③多様な生涯学習の場と機会を社会に提供することで貢献する ④宗教者としての自覚のもとに、さまざまな人々との対話を通して、成熟社会に向けた貢献を進める
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 仏教学部： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/ （仏教学科： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/buddhism.html ）

(概要) ①仏教および仏教に関連する研究領域に関わる基礎的知識と専門的知識を修得し、それを表現し、発信していく力を身につけている ②社会人に必要とされる教養として、基礎的な読解力、歴史を正しく理解する力、問題を発見し解決策を検討する力、問題にアプローチするために資料を収集し、批判的に思考しながら読解する力、問題に多面的な検討を加えて解答を導き出し、それを論理的に表現する力を身につけている ③以下の二つのうち、いずれか一つの力を身につけている ア 浄土宗教師（浄土宗僧侶）として、仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく力 イ 仏教を学ぶことで培われた知識や技能を、社会のさまざまな場所で積極的に発揮していく力 ④現代社会が抱えるさまざまな問題を理解し対応する力を身につけている ⑤仏教が日本を含むアジアの人々の生活文化の中で果たしてきた役割を再発見、再評価し、それを社会に発信する力を身につけている
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 仏教学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/ （仏教学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/buddhism.html）
(概要) 仏教学部では、仏教に関する体系的な学修を進めることができるように、段階的な科目開講を行い、基礎知識から専門知識まで着実に蓄積されるような教育課程を編成し、仏教および仏教に関連する研究領域に関わる基礎的科目ならびに専門的科目を配置する ①仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を培うための科目を提供する ②社会人として必要な教養や技能を身につけるために、全学共通科目群と全学教養科目群を提供する ③仏教精神を社会で活かすために、読解力から表現力に至るまでの、以下の科目群を提供する ア 仏教を学ぶに際して基本となる読解力を身につけるための基礎科目 イ 仏教の長期にわたる変容の歴史を正しく理解するための歴史科目 ウ 仏教に関わる多様な問題に多面的にアプローチすることで、さまざまな問題を発見し、それを解決する方法を思索するための研究科目 エ 仏教に関わるさまざまな問題にアプローチするための方法として、関連する資料を収集し、批判的に思考しながら資料を読解する力を培う講読科目 オ 仏教に関わるさまざまな問題に関して、多面的な検討を加えるとともに、一定の解答を導き出し、それを論理的に表現する力（話す力・書く力）を培う演習科目 ④以下の二つのうち、いずれか一つの力を身につけるためのカリキュラムを提供する ア 浄土宗教師（浄土宗僧侶）として、仏祖・宗祖の精神を備え、それを伝え広めていく力 イ 仏教を学ぶことで培われた知識や技能を、社会のさまざまな場所で積極的に発揮していく力 ⑤現代社会が抱えるさまざまな問題を理解し対応する力を培うために、仏教と現代諸科学に関する科目や実践・体験に関わる科目を提供する ⑥仏教が日本を含むアジアの人々の生活文化の中で果たしてきた役割を再発見、再評価し、それを社会に発信する力を培うための科目を提供する ⑦卒業後の進路に応じた各種の免許状・資格を取得することができるカリキュラムの一部を提供する

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 仏教学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/ （仏教学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/buddhism.html）
（概要） ●仏教学部が求める学生像 ①仏教に対する旺盛な関心と、幅広い読書力をもっている人 ②話を聞きとる力、話を筆記する力、自らの考えを表現する力、読書する力、鑑賞する力などが学問を志す者にとって必要であることを理解している人 ③アジアの人々の生活の中に、言語や造形や音楽や芸能などを通して根をおろした仏教文化に強い関心を持ち、それらに対する専門的な知識を身につけたいと思っている人 ④浄土宗教師の中で、特に浄土宗を担うリーダーとなることを目指し、積極的に学ぶ強い意思と自覚をもつ人

学部等名 文学部（通学課程）（通信教育課程）
教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表） 文学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/ （日本文学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/japanese.html 中国学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/chinese.html 英米学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/english.html）
（概要） ●人材養成の目的 ①建学の理念に基づき、自己および他者を見つめて相互理解を形成し、さらに世界の多様性を踏まえて社会で活動する人材を養成する ②言語とそれに基づく文化についての基本的理解を有する人材を養成する ③日本、中国、英語圏の諸文化について深い理解を有する人材を養成する ④日本語、中国語、英語についての運用能力を有し、さらにはその他の言語についての理解を有する人材を養成する ⑤国際交流の場において受信とともに発信の能力を有する人材を養成する ●その他の教育研究上の目的 1）教育 ①専門領域への導入のために、初年次教育をきめ細かく実施する ②自己と他者との相互理解についての認識を深めるために、フィールドワークや海外研修・海外留学などの機会を提供する ③学生の学修や実践の成果を社会に向けて発信する機会を設けるなどの学生支援を充実させる ④専門領域におけるキャリア形成支援を進める 2）研究 ①言語を中心とした文学・思想・文化領域における最新の研究を遂行する ②専門領域における研究成果をカリキュラムと授業を通して教育に還元する 3）社会貢献 ①研究成果を種々のメディアを使って公開し、社会に貢献する ②国際交流の領域にすぐれた人材を提供し社会に貢献する ③国語、書道、中国語、英語の教員を養成することによって社会に貢献する

④学生の学修の成果を公表して社会に貢献する
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表 文学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/) (日本文学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/japanese.html 中国学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/chinese.html 英米学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/english.html)
(概要) ①社会のさまざまな事象について、建学の理念によって培われた倫理観に基づいて判断を下し、かつ修得した知識を活用して社会的責任を果たすことができる ②日本、中国、英語圏の諸言語・諸文化に関するそれぞれの専門領域において、深い知識と理解力を身につけている ③日本、中国、英語圏の諸言語・諸文化に関するそれぞれの専門領域において、テーマを設定して自らの見解をまとめることができる ④選択した専門領域以外の関連領域について、基礎的な知識を身につけている ⑤国際交流の場において、相互理解のために情報の受信者あるいは発信者として活動できる一定の知識と能力を身につけている
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表 文学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/) (日本文学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/japanese.html 中国学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/chinese.html 英米学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/english.html)
(概要) ①全学共通科目・全学教養科目の修得を前提とした専門科目を設ける ②国際交流における外国語の重要性に鑑み、全学共通科目において複数の外国語の学修を必須とする ③世界の多様性を理解する基礎となる科目を学部基幹科目に、初年次教育の中心となるゼミ科目を学科基礎科目に設ける ④専門的知識の獲得と理解力の深化をめざし、言語、文学、思想に関する科目を体系的に配置する ⑤言語を基盤とした文化に関する知識と理解力を養成するための科目を体系的に設ける ⑥長期の海外留学制度を設ける ⑦各学科の専門性に対応した教員免許状取得希望者のために関連する科目を提供する
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP にて公表 文学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/) (日本文学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/japanese.html 中国学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/chinese.html 英米学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/english.html)
(概要) ●文学部が求める学生像 ①興味をもった事柄や分野についての本を読み、その内容についてまとめることができる人 ②日本語、英語、中国語などの言語について、興味と学習意欲をもつ人 ③日本や外国の文学や思想、文化について関心のある人 ④外国語を活用して仕事をしたり、国際交流などの場において活躍したいと考えている人 ⑤日本と外国の相互理解のための知識や能力を身につけたいと考えている人

学部等名 歴史学部（通学課程）（通信教育課程）
教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表） 歴史学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/) (歴史学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/historical.html) 歴史文化学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/culture.html)
(概要) ●人材養成の目的 ①建学の理念に基づき、過去から現代に至る人間の営みを見つめることを通して、「人間力」をもった人材を養成する ②学士課程の学修を通して、社会人として必要な教養や技能を身につけた人材を養成する ③歴史学の学修を通して、時間的・空間的な多様性を理解し、自己とそれを取り巻く文化・社会を客観的にみつめることができる人材を養成する ④歴史学や関連諸学の学修を通じて、人間・社会・文化等の歴史的な事象について、幅広い知識と多様性に対する理解に裏打ちされた洞察力と判断力を備えた人材を養成する ⑤学修の成果を活用して現代社会と能動的に向き合い、学修を通じて体得した多様な方法論と実践力をもって問題解決に取り組む人材を養成する ●その他の教育研究上の目的 1) 教育 ①人材養成の目的に基づいた多様な教育課程を提供する ②日本あるいは世界の歴史についての学修を通して身につけた教養や技能を活用できる人材を養成するために、多様な学修機会を提供する ③歴史学に関する学修を促進するための学生に対する支援を行う ④歴史学の学修成果を活用できるキャリア形成支援を推進する 2) 研究 ①歴史学の各分野における最新の研究を遂行する ②それぞれの専門領域における研究成果を積極的に教育へ還元する 3) 社会貢献 ①体験・実践を重視した学修を通して、地域社会の課題の発見や解決に貢献する ②教育・研究の成果を積極的に発信し、歴史学の諸分野・諸領域に関するさまざまな学修機会を提供し、社会に還元する ③教員・学芸員など歴史と直接に関わる専門職をはじめ、行政や一般企業などにおいても、歴史および歴史学に関わる知見や思考を活かすことのできる人材を輩出して社会に貢献する
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 歴史学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/) (歴史学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/historical.html) 歴史文化学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/culture.html)
(概要) ①建学の理念に基づき、豊かな人間性と社会とを支える広い教養を身につけている ②歴史学の学修を通して、日本あるいは世界の個人・文化・社会に関する基本的な知識や技能を有している ③個人・文化・社会などの多様性を理解し、自らの思考や判断に活かすことができる。 ④学修の成果を用いながら、自らが設定した課題を考察することができる

⑤地域社会や国際社会に内在する諸問題に関して、学修の成果を援用し課題を発見し、その解決に向けて実践的に取り組むことができる

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表

歴史学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/>）

（歴史学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/historical.html>

歴史文化学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/culture.html>）

（概要）

歴史学部では、学位授与基準を満たす能力の修得を目指して、以下の方針のもとにカリキュラムを編成します。

- ①歴史学部のカリキュラムは、大学全体で提供される全学共通科目・全学教養科目を通じて養われる知識や教養を基礎にしながら、学部の専門科目を歴史・歴史文化両学科に共通する内容を学ぶ学部基幹科目、各学科の基礎的な内容を学ぶ学科基礎科目、学科の専門的な内容を学ぶ学科専門科目（各領域の学科専攻科目、関連科目）で構成する
- ②歴史学部における初年次の学修は、学部全体として大学での学びへの円滑な導入および基礎的なアカデミックスキルの修得を目指す「入門ゼミ」と、全学共通科目の「専門学修のための日本語表現」の二つの科目を中心に、両学科に共通する内容を学ぶ学部基幹科目と、各学科の基礎的な内容を学ぶ学科基礎科目で構成する
- ③研究法ゼミ（2 学年）、発展研究ゼミ（3 学年）、卒業研究ゼミ（4 学年）と継続的にゼミを設置することによって選択領域の学修の深化をはかるとともに、学生自身による思考・判断、および表現する力の養成を目指す
- ④専門教育の学修内容を補完し、より幅の広い学修をうながすため、多彩な関連科目を設定する。両学科の関連科目は過去の事象をさまざまな角度から考察する歴史学という学問の特性を考慮して互いに履修可能となるよう設定し、横断的な学修を担保する
- ⑤関連科目は、京都の歴史や文化を集中的に学ぶ「京都学プログラム」、中学校社会・高等学校地歴・公民の教育職員免許状取得を目指す「教職免許状取得プログラム」、博物館学芸員資格取得を目指す「学芸員資格プログラム」、図書館司書・学校図書館司書教諭資格取得を目指す「図書館司書プログラム」など体系的で効果的な学修を目的にしたプログラム科目群を設定する

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP にて公表

歴史学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/>）

（歴史学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/historical.html>

歴史文化学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/culture.html>）

（概要）

●歴史学部が求める学生像

- ①世界史・日本史・地理など地歴科目のいずれかについてより広範な知識を有している人
- ②自分の考えを言葉や文章で表現できる人
- ③歴史や文化について関心のある人
- ④大学での学修を活かして、社会に積極的に関わろうとする人

学部等名 教育学部（通学課程）（通信教育課程）

教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表

教育学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/>）

（教育学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/education.html>

幼児教育学科：

<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/childhood-education.html>

臨床心理学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/psychology.html>）

(概要) ●人材養成の目的 ①建学の理念に基づき、自己および他者を冷静にそして温かく見つめ、子どもから成人に至る周囲の人間の気持ちや考えを理解する力をもった人材を養成する ②自己を理解し、集団内での自身の役割を自覚するとともに、周囲の環境や他者を理解し、良好な人間関係を築ける人材を養成する ③教育・臨床心理に関わる専門的知識と技能を有し、当該分野におけるさまざまな事象に対する的確・迅速な問題把握能力と、協働作業による問題解決能力をもつ人材を養成する ●その他の教育研究上の目的 1) 教育 ①人間を深く理解した実践力の育成につなげるため、理論と実践の双方を体系的に組み合わせた教育の機会を提供する ②生涯発達および生涯学習の視点から人間を捉え、生涯にわたる学びの場を提供する ③学生一人ひとりの学修状況を恒常的に把握し、個々に応じた学生支援を充実させる ④専門領域に応じたキャリア支援を、入学時から卒業時までの中で体系的に進める 2) 研究 ①教育学、臨床心理学領域における最新の研究を遂行する ②専門領域における研究成果を積極的に教育・臨床心理における実践に還元する 3) 社会貢献 ①教育・臨床心理に関わる現在の諸問題を、実践や実習、ボランティアなどを通して交流・共有し、その解決に向けて最新の研究成果を提供する ②教育・保育現場、臨床心理相談室等の施設を中心に、力を発揮し貢献できる人材を輩出する
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 教育学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/) (教育学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/education.html) 幼児教育学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/childhood-education.html) 臨床心理学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/psychology.html)
(概要) ①学校や病院等、教育支援、臨床心理学的援助が要請される領域の諸問題に積極的に取り組み、問題解決する実行力を身につけている ②教育学あるいは臨床心理学に関わる研究の基礎的方法論を修得するとともに、大学院進学希望にも対応できる十分な資質・能力を身につけている ③教育学や臨床心理学に関わる基礎的な知識・技能および応用力を有し、さらに、それらの領域で情報通信技術を活用できる技能を身につけている ④人間を理解する心を涵養し、社会的な常識を有し、社会の幅広い年齢層の人たちと協働できる人間関係能力を身につけている
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 教育学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/) (教育学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/education.html) 幼児教育学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/childhood-education.html) 臨床心理学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/psychology.html)

(概要) ①社会人として必要な教養や知識・技能を身につけるために、全学共通科目群と全学教養科目群を設ける ②初年次より大学での学びや、人間関係能力を高めるための科目を配置し、大学生としての心身の発達を全面的にサポートする ③学生の将来設計に応じて、時代に即した免許・諸資格の取得が効果的・能率的にできるよう、学部・基礎科目、学科別の基礎科目から専攻科目、そして資格の幅を広げる関連科目でカリキュラムを編成する ④教育・臨床心理の領域で高度な技能を有する人材育成を目的として、基礎的・専門的内容を理論と実践の双方から体系的に学ぶことができるようカリキュラムを編成する ⑤教育・保育現場や病院等と連携した実習科目を設置し、実践的な問題解決能力の育成を図る ⑥主体的な学習を通じて、論理的思考力、言語活用能力、問題発見解決能力などグローバル社会で必要とされる能力を育成する科目を設ける ⑦研究を遂行する基礎的能力育成のため、研究方法を学び実践する科目を設ける ⑧情報通信技術を活用した科目を設置し、知識基盤社会および教育・保育現場や病院等での協働業務において必須となる情報活用能力の育成を行う
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 教育学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/) (教育学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/education.html) 幼児教育学科： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/childhood-education.html 臨床心理学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/psychology.html)
(概要) ●教育学部が求める学生像 ①人間の「心」や「学び」について深く学び、研究しようとする気持ちを有する人 ②大学で学ぶために十分な資質・能力を有し、ものごとを論理的に考えたり、直感的に捉えたり、それらを活用する力をもっている人 ③自身の目標を設定し、それに向けて弛まぬ向上心をもっている人 ④他者と積極的に関わり、協力して物事を遂行する力をもっている人 ⑤他者を支え、他者の成長を自身の喜びと捉えることのできる人
学部等名 社会学部（通学課程）（通信教育課程）
教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表） 社会学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/) (現代社会学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/modern.html) 公共政策学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/public.html)
(概要) ●人材養成の目的 ①仏教精神に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、感謝の精神をもち、共生社会の形成に資する人材を養成する ②自己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しとともに行動する力をもった人材を養成する ③社会学または公共政策学をはじめとする各専門領域の学修を通じて、社会人として求められる総合的な教養を身につけた人材を養成する ④現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性と実行力を備えた人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①基礎的な学力の形成に資するために、社会学をはじめ各専門領域に関する体系的なカリキュラムを提供する
- ②現代社会の諸課題に対応した教育環境を提供し学生支援を充実させる
- ③地域や産業界と連携して質の高い体験活動の機会を提供する
- ④広い社会的視野に立ってキャリア形成支援を積極的に進める

2) 研究

- ①社会学または公共政策学をはじめとして各専門領域における最新の研究を遂行する
- ②それぞれの専門領域における研究の成果を積極的に教育に還元する

3) 社会貢献

- ①体験活動やボランティアなどを通じて地域社会への貢献を行う
- ②研究成果を積極的に社会に還元する
- ③多様な学習機会を社会に提供する

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表

社会学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/>)

(現代社会学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/modern.html>

公共政策学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/public.html>)

(概要)

- ①社会学または公共政策学に関する幅広い知見を有し、共生社会に貢献することができる
- ②自己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動する力をもっている
- ③社会の一員として求められる総合的な教養を身につけている
- ④現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性を備えている

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表

社会学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/>)

(現代社会学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/modern.html>

公共政策学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/public.html>)

(概要)

- ①社会人として必要な教養や知識・技能を身につけるために、全学共通科目群と全学教養科目群を設ける
- ②社会学または公共政策学に関する幅広い知見を有し、共生社会の形成に資する力を培うための科目を提供する
- ③自己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動する力を培うための科目を提供する
- ④専門教育の基礎となる総合的な教養を身につけるための科目を提供する
- ⑤現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性を備えるための科目を提供する
- ⑥体験や実践を通じて応用力を培い、総合的に表現する力を身につけるための科目を提供する

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP にて公表

社会学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/>)

(現代社会学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/modern.html 公共政策学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/public.html)
(概要) ●社会学部が求める学生像 ①学習や体験を通じて社会に対する問題意識を培ってきた人 ②他者の考えを理解し、他者を尊重しともに行動しようという意欲のある人
学部等名 社会福祉学部（通学課程）（通信教育課程）
教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表） 社会福祉学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/ （社会福祉学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/social.html）
(概要) ●人材養成の目的 ①建学の理念に基づき、自己をみつめ他者への深い理解を心がけ、多様な人々とともに生きる知識と作法をもった人材を養成する ②歴史的に人類が追求してきた共同の意義と現代社会における福祉の意義と課題をとらえ、理念と思想に支えられた実践力あふれる人材を養成する ③社会福祉、保育を中心に教育、行政、企業などのさまざまな分野で、社会問題への認識にもとづいた共感的理解、個人の尊重、社会正義を基本に乳幼児期から青年期、高齢期まですべての人々の生活と発達を援助できる人材を養成する ④差別や抑圧のない平和で安全な社会を推進するための知識と教養を身につけた市民社会の担い手を養成する ●その他の教育研究上の目的 1) 教育 ①社会福祉を学ぶ基礎的な力を形成し、深く社会や人間を理解するための教育課程を提供する ②社会福祉の多様な展開や仕組みづくりを学修し、より実践的な力を身につけながら資格取得に結びつけることができる課程を提供する ③現場との共同に基づく、幅広く重層的な学修教育支援プログラムを提供する ④専門領域に応じたキャリア指導を入学時から卒業時までの中で体系的に進める 2) 研究 ①福祉・保育・医療現場や行政機関、地域との共同研究を進める ②研究成果に基づき、高い専門性を有した福祉専門職の養成に資する研究を進める ③教育に還元するために、関連領域の国際的な研究成果に広く学び研究を進める 3) 社会貢献 ①福祉関連領域だけでなく福祉を理解した幅広い分野で活躍できる人材を輩出し、社会に貢献する ②福祉現場の現任研修・リカレント教育を含む人材育成に貢献する ③実践的な学びを通して地域の活性化やまちづくりの支援に貢献する
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 社会福祉学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/ （社会福祉学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/social.html）

(概要) ①建学の理念に基づき、自己覚知、他者理解のための教養と専門知識、多様な人々とともに生きる知識と作法を身につけている ②人間の共同についての歴史的な理解と現代社会における福祉の意義と課題をとらえ、社会のさまざまな領域で活かすことができる実践力を身につけている ③社会問題への認識を深め、他者を共感的に理解できる姿勢をもち、個人の尊重や社会正義を理解し、社会生活のさまざまな分野で活かすことができる ④市民として、差別や抑圧のない平和で安全な社会に関する知識と教養を身につけている
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 社会福祉学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/) (社会福祉学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/social.html)
(概要) ①全学共通科目・全学教養科目の学修と関連させ、社会福祉学の専門学修のうえで基本認識となる社会のとらえかた、人間理解と実践のありかた、人権に関する基幹科目をおく ②社会福祉学の基礎理論を重視し、福祉問題の現実とその政策的解決や実践的解決を結びつけて学修できるよう、また医療・教育・まちづくりなど関連領域との広がりの中で学修できるよう、分野論、実践論、制度論にわたる体系的な教育課程を提供する ③演習系科目における少人数教育を実施し、教員の指導・援助のもとに、学生 1 人ひとりが主体的かつ共同して探求する力をはぐくむ教育課程を提供する ④現場との共同により、専門的知識体系を実践的にも学修することができる教育課程を提供する ⑤将来の進路、キャリア形成に応じ免許・資格の取得に結び付く科目を含んだ課程を編成する
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 社会福祉学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/) (社会福祉学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/social.html)
(概要) ●社会福祉学部が求める学生像 ①自らの可能性を広げ、目標に向かって努力することができる人 ②社会福祉と人間の生涯の発達について関心をもち、現在の社会・生活・教育に関する問題の解決に向けた具体的な方策に関心をもっている人 ③多様な他者との関わりから学び、また自ら主体的に学ぶことを通して、社会に貢献しようとする姿勢をもっている人 ④社会福祉学を学ぶ基礎となる読解力、歴史や現代社会についての基本的な知識や関心をもつ人

学部等名 保健医療技術学部（通学課程のみ）
教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表） 保健医療技術学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/) (理学療法学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/physical.html) 作業療法学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/occupational.html) 看護学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/nursing.html)

(概要) ●人材養成の目的 ①共生と平等、人間尊重といった建学の理念を体現しうる人材を養成する ②人を理解し、真に共感しうる豊かな人格を有する人材を養成する ③高い学識を有する人材を養成する ④優れた技術を有する人材を養成する ⑤探究心や研究の視点を有する人材を養成する ⑥有効なチーム医療を担いうる人材を養成する ⑦福祉、保健、教育、地域などの関連諸分野と連携して問題解決のために行動しうる人材を養成する ⑧医療技術の高度化・情報化・国際化に対応しうる人材を養成する ●その他の教育研究上の目的 1) 教育 ①日進月歩する医学・医療・保健の専門知識を理解するために必要とされる十分な基礎学力と思考力を養う教育課程を提供する ②本学の利点を生かした福祉、教育、社会科学、人文科学、仏教、哲学などの諸分野についての幅広い修学を通じて豊かな知性と人間性を涵養する教育課程を提供する ③生涯にわたってできる限り健康を享受したいという全ての人々がもつ願いの実現に向けて、あらゆるライフステージにおいて健康増進のために専門知識・技術を駆使しうる教育課程を提供する 2) 研究 ①医学・医療・保健領域における最新の研究を遂行する ②国際的に寄与しうる質の高い研究に取り組む ③研究成果を積極的に教育および臨床に還元する 3) 社会貢献 ①専門的医学知識や医療技術を活用して地域貢献を行う ②高い学識、優れた技術、豊かな人間性を有した人材を医療の世界に送り出すことによって社会に貢献する ③病院勤務の医療人の養成にとどまらず、高齢者、子ども、障がい者などの社会福祉的医療課題や地域のニーズにも応えられる人材を送り出すことによって社会貢献を行う
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 保健医療技術学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/) (理学療法学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/physical.html) 作業療法学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/occupational.html) 看護学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/nursing.html)
(概要) ①建学の理念に基づいて、共生と平等、人間尊重、平和への希求を体現し、人類の進歩に貢献する力を有している ②医療人として常に人の側にたって、人とともに人生の苦しみとたたかう強い意志や意欲を有している ③医学・医療・保健の世界で活躍するために必要な学力を有し、常に実践の質を高める努力を続ける力を有している ④医療・保健の現場で必要とされる読み書き能力や良好なコミュニケーション能力を有している ⑤研究の面白さや研究的思考方法の基礎を修得することによって、将来、臨床とともに研究も行いうる資質をもっている

⑥互いの専門性の理解のうえにたった対等な立場でのチーム医療や連携実践のあり方を追求する能力を有している ⑦今後のさらなる医学・医療・保健の高度化・国際化・情報化に対応して活躍する力をもっている
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 保健医療技術学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/) (理学療法学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/physical.html) 作業療法学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/occupational.html) 看護学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/nursing.html)
(概要) 本学部は、全学共通科目と全学教養科目に加え理学療法士、作業療法士、看護師の各養成課程の指定規則に定められている科目を基礎的科目から応用的科目まで順序立てて配置する。 ①医療従事者としての共感性、豊かな人間力を涵養するための科目を配置する ②基礎的学力を充実させるための科目を配置する ③高度医療に対応しうる専門科目を配置する ④実践場面に对应しうる能力を修得するための科目を配置する ⑤研究的思考を養うための科目を配置する ⑥英語を含めた語学科目を配置する
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 保健医療技術学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/) (理学療法学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/physical.html) 作業療法学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/occupational.html) 看護学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/nursing.html)
(概要) ●保健医療技術学部が求める学生像 ①医学・医療・保健の知識や技術をもって、人々の役に立ちたいと思う熱意や意志を有している人 ②基本的な学習習慣を有し、膨大な医学・医療・保健の知識の修得に地道な努力を続けられる人 ③高等学校等での学習を通じて自然科学としての医学を理解するための基礎的学力を有している人 ④医療・保健分野において必須となる読み書き能力を身につける意欲を有している人 ⑤対人サービスにおいて必要とされる良好なコミュニケーション能力を身につける意欲を有している人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/outline/education/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4 人	—					4 人
仏教学部	—	5 人	6 人	2 人	0 人	0 人	13 人
文学部	—	14 人	7 人	9 人	0 人	0 人	30 人
歴史学部	—	12 人	6 人	2 人	0 人	0 人	20 人
教育学部	—	25 人	15 人	13 人	0 人	0 人	53 人
社会学部	—	19 人	9 人	2 人	0 人	0 人	30 人
社会福祉学部	—	15 人	6 人	4 人	0 人	0 人	25 人
保健医療技術学部	—	17 人	15 人	7 人	16 人	0 人	55 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		455 人					455 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学 HP にて公表 https://www.bukkyo-u.ac.jp/faculty/teacher/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等（通学課程）								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
仏教学部	60 人	60 人	100.0%	240 人	246 人	102.5%	— 人	— 人
文学部	240 人	256 人	106.7%	960 人	1,007 人	104.9%	— 人	— 人
歴史学部	180 人	177 人	98.3%	720 人	801 人	111.3%	— 人	— 人
教育学部	290 人	313 人	107.9%	1,160 人	1,255 人	108.2%	— 人	— 人
社会学部	320 人	308 人	96.3%	1,280 人	1,343 人	104.9%	— 人	— 人
社会福祉学部	220 人	241 人	109.5%	880 人	941 人	106.9%	— 人	— 人
保健医療技術学部	145 人	161 人	111.0%	580 人	614 人	105.9%	— 人	— 人
合計	1,455 人	1,516 人	104.2%	5,820 人	6,207 人	106.6%	— 人	— 人
(備考)								

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等（通信教育課程）								
学部等名	入学定員 (a)	入学数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
仏教学部	100 人	21 人	21.0%	700 人	257 人	36.7%	150 人	43 人
文学部	250 人	73 人	29.2%	2,000 人	1,142 人	57.1%	500 人	255 人
歴史学部	200 人	77 人	38.5%	1,500 人	960 人	64.0%	350 人	204 人
教育学部	450 人	78 人	17.3%	4,150 人	1,918 人	46.2%	1,150 人	506 人
社会学部	400 人	35 人	8.8%	3,000 人	262 人	8.7%	700 人	48 人
社会福祉学部	200 人	32 人	16.0%	1,800 人	481 人	26.7%	500 人	52 人
合計	1,600 人	316 人	19.8%	13,150 人	5,020 人	38.2%	3,350 人	1,108 人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数（通学課程）				
学部等名	卒業生数・修了者 数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
仏教学部	43 人 (100%)	4 人 (9.3%)	38 人 (88.4%)	1 人 (2.3%)
文学部	235 人 (100%)	7 人 (3.0%)	204 人 (86.8%)	24 人 (10.2%)
歴史学部	171 人 (100%)	12 人 (7.0%)	142 人 (83.0%)	17 人 (10.0%)
教育学部	220 人 (100%)	13 人 (5.9%)	199 人 (90.5%)	8 人 (3.6%)
社会学部	310 人 (100%)	4 人 (1.3%)	272 人 (87.7%)	34 人 (11.0%)
社会福祉学部	260 人 (100%)	8 人 (3.1%)	233 人 (89.6%)	19 人 (7.3%)
保健医療技術学部	141 人 (100%)	1 人 (0.7%)	134 人 (95.0%)	6 人 (4.3%)
合計	1,380 人 (100%)	49 人 (3.6%)	1,222 人 (88.6%)	109 人 (7.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

〔概要〕 本学のシラバスは、学生に授業の進め方や到達目標を明示するため「授業のテーマ」「授業の概要」「授業の目的・ねらい」「毎回の授業テーマ・内容」「到達目標」「授業時間外の学修（予習・復習等）についての具体的な指示」「受講にあたっての留意事項」「成績評価の基準」「テキストについて」の項目を設け、本学ホームページ等で公表している。 また、受講する学生が計画的に学習する習慣や、授業時間外学習をする習慣を身につけることができるツールとしても位置付けられている。 シラバス作成時には、「シラバス作成要領」を教員に配付し、各項目の記入における注意事項を明記し、標準化された基準に沿って作成を促す等、授業の質向上に努めている。 また、授業設計における PDCA サイクルの実現に向け、共通科目、学部専門科目を対象に、第三者によるシラバス点検も例年実施しており、授業計画や内容の充実に努めている。 〔通信教育課程〕 通信教育課程も通学課程と同様であるが、自宅学習が基本となる「印刷教材等による授業（本学ではテキスト履修と称する）」においては対面による授業を行わないことから、「毎回の授業テーマ・内容」の代わりに、当該テキスト履修科目の「レポート設題」および「レポート学習の留意点」の項目を設けるなどの工夫を行っている。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

〔概要〕 本学では、1 年次、2 年次および 3 年次の春学期に、外部業者によるアセスメントテストを実施しており、各学年における基礎学力、学習意欲、学修実態を調査している。 また、学修成果に対する評価については、シラバスに記載されている「到達目標」の達成度を基準としたうえで、定期試験、レポート、実技等どのような方法によって評価するかを予め明示している。 また、2019 年度 1 年次入学者から適用される新カリキュラムでは、GPA による成績評価が導入され、それと同時に全学の「成績評価の基準」を設けたことにより、さらに標準的で厳格な成績評価が可能となっている。 また、佛教大学のディプロマポリシーは以下のとおり制定している。 人材養成の目的にも示したように、本学は仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけた人材、すなわち「人間力」をもった人材の養成を目指しています。具体的には「転識得智」すなわち社会人として必要な教養や知識・技能および専門知識を生き
--

る力（応用力）へと導く力を培うことを目的とします。
以下に示す力を修得するとともに、学部・学科の人材養成の目的に基づいて設定された教育課程を修めた学生に対して、本学は卒業を認定し学位（学士）を授与します。

- ① 仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている。
- ② 仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている。
- ③ 社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている。
- ④ 自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力をもっている。
- ⑤ 専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力を身につけている。

以上を大学の基本とし、各学部学科においてもディプロマポリシーを制定している。
また、学部学科ごとに卒業所要単位と要件、卒業論文・卒業研究・卒業レポート作成・提出の
手順および卒業所要単位充足者発表のスケジュール等を学生に示している。

〔通信教育課程〕

通信教育課程の学修成果に係る評価および卒業の認定に対する認定については、通学課程同様、シラバスに記載されている「到達目標」の達成度を基準としたうえで、テキスト履修については科目最終試験、スクーリング履修については試験またはレポートによって評価する旨を明示している。

また、通信教育課程では GPA を導入はしていないが、従来の成績評価により厳格かつ適正に評価を行っている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
仏教学部	仏教学科	124 単位	有・無	単位
文学部	日本文学科	124 単位	有・無	単位
	中国学科	124 単位	有・無	単位
	英米学科	124 単位	有・無	単位
歴史学部	歴史学科	124 単位	有・無	単位
	歴史文化学科	124 単位	有・無	単位
教育学部	教育学科	124 単位	有・無	単位
	幼児教育学科	124 単位	有・無	単位
	臨床心理学科	124 単位	有・無	単位
社会学部	現代社会学科	124 単位	有・無	単位
	公共政策学科	124 単位	有・無	単位
社会福祉学部	社会福祉学科	124 単位	有・無	単位
保健医療技術学部	理学療法学科	124 単位	有・無	単位
	作業療法学科	124 単位	有・無	単位
	看護学科	124 単位	有・無	単位
仏教学部	仏教学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
文学部	日本文学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
	中国学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
	英米学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
歴史学部	歴史学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
	歴史文化学科	124 単位	有・無	単位

	(通信教育課程)			
教育学部	教育学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
	幼児教育学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
社会学部	現代社会学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
	公共政策学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
社会福祉学部	社会福祉学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/access/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
仏教学部	仏教学科	新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	200,000 円	200,000 円	その他は設備費
文学部	日本文学科	新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	200,000 円	200,000 円	その他は設備費
	中国学科	新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	200,000 円	200,000 円	その他は設備費
	英米学科	新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	200,000 円	200,000 円	その他は設備費
歴史学部	歴史学科	新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	200,000 円	200,000 円	その他は設備費
	歴史文化学科	新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	200,000 円	200,000 円	その他は設備費
教育学部	教育学科	新入生 920,000 円 在学生 960,000 円	200,000 円	200,000 円	その他は設備費
	幼児教育学科	新入生 920,000 円 在学生 960,000 円	200,000 円	200,000 円	その他は設備費
	臨床心理学科	新入生 920,000 円 在学生 960,000 円	200,000 円	200,000 円	その他は設備費
社会学部	現代社会学科	新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	200,000 円	200,000 円	その他は設備費
	公共政策学科	新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	200,000 円	200,000 円	その他は設備費
社会福祉学部	社会福祉学科	新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	200,000 円	200,000 円	その他は設備費
保健医療技術学部	理学療法学科	新入生 1,350,000 円 在学生 1,390,000 円	200,000 円	400,000 円	その他は設備費
	作業療法学科	新入生 1,350,000 円 在学生 1,390,000 円	200,000 円	400,000 円	その他は設備費
	看護学科	新入生 1,350,000 円 在学生 1,390,000 円	200,000 円	400,000 円	その他は設備費
仏教学部	仏教学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
文学部	日本文学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
	中国学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
	英米学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
歴史学部	歴史学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
	歴史文化学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
教育学部	教育学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
	幼児教育学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
社会学部	現代社会学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
	公共政策学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
社会福祉学部	社会福祉学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 学生の履修状況等の確認を行い、その状況を各学科担当教員に報告のうえ、低単位修得や欠席傾向にある学生の個別面談等の実施につながるよう支援している。 また、学生支援課内に「学生なんでも相談窓口」を設置し、履修相談を含め、学生生活全般に関する相談対応も行っている。 (通信教育課程) 通信学生課内に学習相談室を設置して、履修相談・学生生活全般に関する個別相談対応を行っている。また、全国に学習サポーターを配置し、学友会組織と連携しながら、学習会などの際に学修や学生生活に関する個別相談対応を行っている。 加えて、定期的に「レポートの書き方学習会」、「卒業論文の取り組み方学習会」等の学習会を開催している。 特に新生においては、入学時期に大学生活をスタートするための準備として、「新生オリエンテーション」を開催して、学部での学びの内容や履修方法の説明などを行いサポートにあたっている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 進路就職課のスタッフの他、キャリア・アドバイザー（10名）体制で学生の支援をしている。キャリア・アドバイザーの面談では、進路に関する相談や履歴書・エントリーシートの添削、面接練習など、昨年度は3,663件の相談があった。この面談は、学内の他、大阪の中津にサテライトを設けて実施している。また、本学は就職先が多岐に渡るため、共通の就職ガイダンス以外にも分野ごとのガイダンスやセミナーを実施しており、その数は年間約200にのぼる。学年に応じ実施する内容を精査し、就職活動時や社会人として必要なことを段階的に学べるように工夫している。その他にも求人情報の閲覧システム、支援冊子の作成および配付、学内での企業説明会、採用試験対策などあらゆる角度から学生を支援している。また、オンラインと対面の両方の選考に対応すべく、対面での対策に留まらず、オンラインでの面接演習も取り入れている。 (通信教育課程) 通信教育課程の学生はすでに職に就いているものがさらなる教員免許状や諸資格を取得するキャリアアップを目的としているため、進路に関する相談はほぼない状態ではあるが、学部本科生（大学卒業を目指す者）でなおかつ初めて職に就くなどで相談を希望する者については通学課程に準じ、進路就職課において、進路・就職に関する支援を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 学生が希望する場合、入学手続き時に「心身に関する申告書」を提出させ、大学生活において留意すべき心身の状態や配慮内容を確認している。さらに、必要に応じて、本人からの「学生生活上の配慮希望票」や医療機関からの「主治医意見書」、出身学校からの「支援情報提供書」を入手のうえ、学生支援課を中心に学生相談センターおよび健康管理センターと連携しながら、関係部署および教員との情報共有を図り、支援を行っている。 (通信教育課程) 全学生から入学手続き時に「心身に関するアンケート」を提出させ、大学生活において留意すべき配慮内容を確認している。さらに、必要に応じて、本人からの「身体等状況連絡票」や「身体障害者手帳・精神保健福祉手帳」を入手のうえ、場合によっては、通信学生課にて個別面談を行い、各担当教員へスクーリング講義時の配慮依頼を行うなど、教員と情報共有・連携しながら支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/data/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A 4 とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F126310107605
学校名（〇〇大学 等）	佛教大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人佛教教育学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		820人（18）人	805人（34）人	864人（33）人
内 訳	第Ⅰ区分	470人	452人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	224人	229人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	108人	90人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	18人	34人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（ 0 ）人
合計（年間）				870人（33）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	12人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	12人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	20人	0人	0人
計	44人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	一人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	43人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	—	0人	0人
GPA等が下位4分の1	108人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	0人	0人
計	109人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。